

令和3(2021)年度 FD・SD研修

全体実施報告書

群馬医療福祉大学 FD・SD委員会
委員長 橋本 広信

(1) 令和3年度の研修概要

(図1. 群馬医療福祉大学 FD・SDに関する年間研修サイクル図)



令和3(2021)年度のFD・SD活動を計画するにあたり、FD・SD委員会の方針として、年間の研修サイクルを定め、誰もが理解しやすい研修の流れを構築することに取り組んだ。結果として、図1のような年間研修サイクルを一応描き、これに基づいて研修を計画し、実施でき

るよう努力をした。

まず活動単位で大きく三つの水準に分け、整理した。大学・短大全体の問題を扱う全学単位の研修は「マクロレベル研修」、学部学科や専攻、コース、また事務局の部課別等の部局単位で行う研修は「ミドルレベル研修」、教員や職員の興味や研修したいテーマなどに即して企画実施されるものは「マイクロレベル研修」とした。

数年前まではマクロレベルの研修がFD研修やSD研修の大半を占めていた。しかし、より具体的な教育や事務局の現場につながる研修を盛んにしたいという思いもあり、昨年度から特にミドルレベルでの研修に力を入れることとした。今年度に関しては、このレベルでの研修が大きく前進したと感じている。

ここからさらに、細かいテーマに沿って年間を通して教職員の力量を上げるためのマイクロレベルでの研修が随時行われるような形になっていけば、前向きな研修文化を持つ大学として、継続的な発展のサイクルが稼働するのではないかと期待している。

(2) 研修別概要報告

1) マクロレベル研修①「年度初めの会」における FD・SD 研修 (SD 研修・1) 対象：常勤の全教職員

本学では毎年度の初日に「年度初めの会」を開催している。年度当初に辞令が交付された後、年度の始まりに当たって、学長の方針や期待を各教職員が理解し共有する契機と位置付けられるものである。これとあわせて短時間のテーマを決めた講習を行う（代表教員による講話が主体）ことがあり、全学教職員の SD 研修と位置付けることができる。これをマクロレベル研修の第 1 回目とすると年間で 6 回の研修を実施するサイクルとなる。

今年度は、新たに開設した医療技術学部が学生が初めて入ってくるにあたり、本学における担任制について、代表教員による講習を行った。（参考資料：「教員・講師用遠隔授業進行マニュアル 2021」、「学生支援ガイドークラス担任必携―（クラス運営・学生指導）」）

例年、この「年度初めの会」は全学の「常勤教職員」が参加をするため、研修の参加率も毎年ほぼ 100% といっている。

2) マクロレベル研修②～③ 夏期 FD・SD 研修 (SD 研修・2) 対象：非常勤を含む全教職員

本学は前・後期の二期制の学期制を継続しており、長期に研修ができる期間は夏期と春期となる。伝統的に学生の夏期休業中にあたる 9 月に全学の教職員に対する研修を行うことがあったが、これをマクロレベル研修の柱とする形で、数年前から年間研修サイクルに位置づけるようにしてきた。

コロナ禍でもあり、今年度は学内の講師でできることや zoom を使ってできる研修を前提に企画をしてきたが、学長の強い意向もあり、この夏の研修においては SDGs を意識した大学教育の取組みについて探るということに決定した。

研修では、このテーマにふさわしい講師に解説をお願いし、特に高校においてどのような活動が実際に行われているかについて講習を受けた。午後にかけては、SDGs に関連する活動を実際に本学で実現するならどのようなことが可能かについて全員で考え、グループワークまで行う予定で準備を進めてきた。しかし、コロナ禍の影響が広がりを見せるなかやむを得ず企画を変更し、講習を午前のみとし、参加した教職員はそれぞれが考えた教育上の取組みをワークシートに整理し、提出することとした。

- ・マクロレベル研修② (SD 研修・2) 対象：非常勤を含む全教職員
- ・日時：9 月 8 日 (水) 10:30～12:00 ※zoom による研修 (配信会場：中講義室)
- ・テーマ「高校での“総合的な探究”の時間と SDGs を鍵とした高大連携での教育の取組みについて」
- ・外部講師：松井 孝夫 先生 (日本自然保護協会臨時職員；元県立中央中等教育学校教諭)
- ・質疑応答・ワークシート提出にて終了

高校での“総合的な探究”の時間と
SDGs を鍵とした高大連携での
教育の取組みについて

松井 孝夫
matsui-takao@edu-g.sns.ed.jp taka7867@gmail.com
日本自然保護協会 臨時職員 (自然観察指導員養成事業)
利根商業高等学校 非常勤講師 (生物)
尾瀬高校活性化委員会 専門委員 (探究・環境教育)
元 中央中等教育学校 教諭



参加者について、常勤教職員は公務などによる理由以外での欠席はなく、ほぼ全員出席となった（参加者数などは後に一覧にて示す）。非常勤講師に関しては、前年度から参加を強制するのではなく努力義務とし

ている関係上、15名（全体114名中；約13％）と全体的に参加が低調であったが、内容が授業に関連しないものであったことも影意があったと思われる。

講師の松井先生からは主に高校におけるSDGs関係の取組みについて、具体例を挙げながら解説がなされた。特に高校で実施が必要となっている「総合的な探究の時間」について、学習指導要領や先生が独自に実施した高校教員へのアンケートなども用いながら状況が報告され、高校の現場で今どのようなことが課題となり、どのようなニーズがあるかについて話題提供がなされた。こうした高校側のニーズも理解した上で、大学と高校が連携して取り組めるような教育活動についてどのようなことが可能であるか、実際に行われている実践例も交えながら、説明や提案がなされていった。

参加者はあらかじめメールで配信されていたワークシートに沿って、解説を参考にしながら、それぞれが本学でのSDGsに関する高大連携の取り組み案を企画する課題に取り組んだ。提出された企画案はエクセルで整理をされているが、その後の活用は現時点では模索中である。

- ・マクロレベル研修③（FD研修・1） 対象：非常勤を含む全教員（職員は別にSD研修を実施）
 - ・日時：9月15日（水）10:30～12:00、13:00～14:30 ※zoomによる研修（配信会場：大講義室・中講義室）
 - ・テーマ「授業技術研修会」
- FD研修 ① 大講：学内講師 藤本 竜 先生「Google フォームなどのWeb ツールの授業への活用」
○FD研修 ② 中講：学内講師 剣持 貴史 先生「反転学習の解説とその導入に向けた試みについて」
※（職員は同時時間帯でSD研修を別に実施：2AB教室：講師：鈴木靖弘 FD・SD委員会副委員長）

夏期のマクロレベル研修は2週間連続で行っている。この間に昨年度からミドルレベルの研修を実施するよう、各部局に働きかけを行っており、今年度は多くの学部学科等での実施がなされた（ミドルレベルのFD・SD研修についての実施報告は別に提示する）。

8日は全学での新たな教育の取組みを模索する内容であったが、今回は、継続して取り組んでいる「授業力向上」をメインテーマにした内容の研修を行った。全教員対象でのFD研修と純粋な事務職員のSD研修を分けて実施をすることで、より専門的な内容の研修を行うことができた。

教員は、学部等で2会場に分かれ、午前と午後入れ替わりに、二つの研修を受講することとした。それぞれの教員は、コロナ禍にあってzoomでの授業を日常的に行う状況が続いている。藤本先生の講義は、そうしたICT技術を利用した授業の工夫に関するものである。看護学部の剣持先生の講習については、ICT利用ということにとどまらず、反転授業など、新しい授業の考え方や展開の仕方を学ぶことにもなった。全員がこうした研修を通して、いきなり技術力が向上するわけではないが、自分の経験の枠を破り、様々な授業に対する工夫を重ねていく文化を形成する意図も込めて実施した。参加率については、zoomによる参加のしやすさにも関わらず、今回も非常勤講師についてはあまり高くはなかった（非常勤講師全体114名中15名；約13％）。

非常勤講師の参加率の向上は一つの課題として捉えたい。

- ・マクロレベル研修③（SD研修・3） 対象：全職員（教員は別にFD研修を実施）
- ・日時：9月15日（水）10:30～12:00、13:00～14:30
※対面によるグループワーク研修（会場：2AB教室）
- ・テーマ「キャンパスデザインについて」 ※報告者 FD・SD委員会副委員長 鈴木 靖弘

〔1〕研修全体の報告

9月15日のFD研修と同時時間帯で行われた全職員を対象とした今年度のSD研修は「キャンパスデザイン」と題

し、広く学内施設の有効利用について考えた。

現在、本学は3つの場所にキャンパスを分散して設置しており、それぞれ校舎内で学生生活を完結できる環境にある。そのため、移動する距離については限りがあり、時間の短縮等は効率的である。一方、校舎内で完結できることにより、多少の閉塞感を感じていることは否めない。学生にとって何が有益か考えた時、教員や友人と様々な場所で語り合い、交流を深める体験のような、いわゆる「キャンパスライフ」を体験できるのは学生時代にしかない醍醐味であり、まだ見ぬ自分の発見にもつながるのではないかと考える。

本学の既存のキャンパス空間や設備の中で学生が日頃の学修に加え、より有益な学生生活を送ることにより、伸ばせる力があると信じ、新たな環境を生み出し、ひいては環境変化によって学生の力（思考力や創造力等）を豊かに育めるよう、学修環境の改善や充実した生活を送るためのキャンパスづくりを検討する必要があると考え、本研修を企画した。

実際の研修では、日ごろのキャンパスのあり方を見直し、新たな学びの場を構築することを中心に、各グループで活発な議論が交わされ、様々な可能性を見出すことができたといえる。一方、本学は3つのキャンパスがあり、それぞれの状況を考慮すると、様々なケースを想定されるため、独特な難しさがあることも見て取れた。また、今回はオンライングループも設定したため、対面グループよりも議論の難しさがあった。

いずれにせよ、各グループ、また各個人が現状を踏まえ、学生にとってよりよい環境を設定するために知恵を出し合っていたことに価値があった。

このことは、教職員にとってもよい学びとなり、何よりも学生の環境を改善するためによい話し合いの場となった。今回のことをきっかけに、学生が授業以外でそれぞれの能力を伸ばすことができる学びの場の検討を重ね、よりよくなるよう改善に務めたい。日ごろ、改善に向けて思ったことを発することができず、有益な発想が埋もれてしまうこともあるが、それぞれの意見をしっかり出し合える関係を構築する上でも有意義な研修だった。

〔2〕実施方法

(1) テーマに基づき、ワークシートを用いてグループワーク。

(2) A～Gの7グループ構成。(1グループ4名程度)
※事務局対応者はオンライングループ

(3) 各グループ「進行」、「書記」、「発表者」等役割分担し、ワークシート（個人用・グループ用）を用いてグループワークを展開。



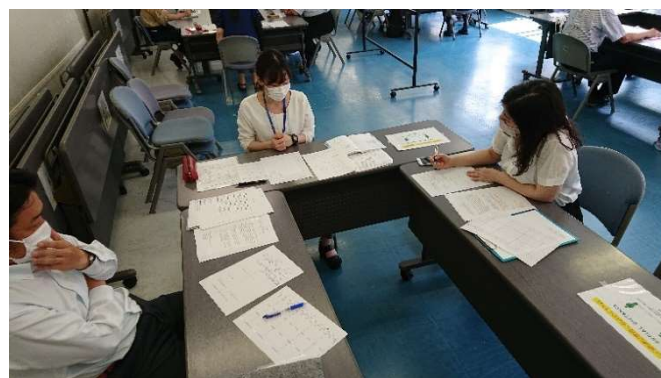
〔3〕改善案創案（ワークシート・アンケート集約）

SD研修用のワークシート（個人用・グループ用）及び自由記述式アンケートを参加者全員に配布し集約する。回収したワークシート・アンケートを基に次回の研修内容の検討及び業務改善につなげる。

目標はグループで話し合われた内容を厳選し、一つでも実現できるよう検討をしていく。



※ワークシート及びアンケートは集約後別紙にて委員会に報告。



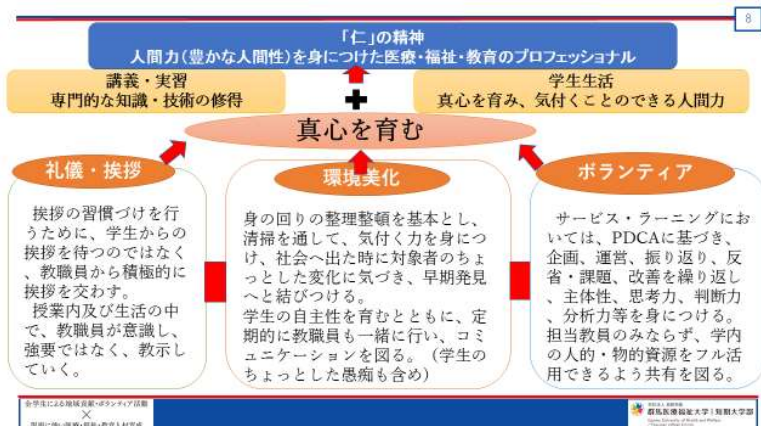
3) マクロレベル研修④ 「年始の会：FD・SD 研修」

令和3年度 学校法人昌賢学園FD研修 企画趣旨説明

本学では節目に全体で集まり、学長を中心に今後の方針を確認し合う伝統があるが、年末年始休暇明けには、「年始の会」を行う。この機会に教職員全体が集まるため、午前集で終了できる研修を行うこととし、年間研修サイクルの一つに位置づけている。

「建学の精神および教育理念・教育方針を
具体的行動目標として表現する」

学校法人 昌賢学園
群馬医療福祉大学 | 短期大学部
Gunma University of Health and Welfare
/ Two-year college Course



・マクロレベル研修④ (FD 研修・2) 対象：
全常勤教職員

・テーマ 全学FD・SD研修 「建学の精神
および教育理念・教育方針を具体的行動目標と
して表現する」

・日 時 令和4 (2022) 年1月5日 (水)
メイン会場・1号館大講義室 対面・分散方式

・内 容

…鈴木靖弘 FD・SD 委員会副委員長

① 企画趣旨説明およびグループワークのねらいについて

② グループワーク (各会場にグループごとに分散して実施)

・全学部混合グループによるグループワーク方式 各グループ8名程度で構成

・司会 (各学部長、学科長、専攻長、事務長、教授、FD・SD委員等を中心に選任)

全体での「年始の会」終了後企画者による趣旨説明を行い、グループワーク会場へ移動しワークを開始。お昼には終了し、発言内容をまとめた報告を書記役が提出するという流れで研修を行った。

主に議論したのは以下の点である。

- ・以下の3段階のレベルにおいて、それぞれ全学的に共通で取り組める行動目標や行動指針を考える

※行動目標例（なるべく実行可能で具体性のあるもの）「ゴミが落ちているのを見たら、自ら拾って捨てよう」

①建学の精神…「仁」を具体的行動目標として展開してみる

※いくつかの行動として表現するかの決まりはなし。ただし全キャンパスで共通に取り組める形にすること。

②教育理念…「知行合一」を具体的行動目標として展開してみる

③教育目標…「質実剛健」「至誠」「敬愛」「忠恕」を具体的行動目標として展開してみる

久しぶりの全学教職員をミックスした形のグループワークを行ったが、日ごろ意見を交わすことのない教職員間での交流ができたという感想がアンケートに多く寄せられた。また、具体的に日常生活の行動においてどのような指導を学生にしたらいいかをつかみやすくなったなど、前向きな意見が多く出たことで、研修には一定の意義があったと感じられた。寄せられたグループごとの意見と個人の意見は貴重な研修の材料として、今後の研修などで活用を考えたい。

4) マクロレベル研修⑤ 「FD 研修：研究倫理教育」(FD 研修・3) 対象・常勤全教員（研究を行う者）

大学では毎年研究倫理に関する意識を向上させるための研修を行うことになっているが、この研修はその一環として企画実施がなされた。また、今後は全体の研修サイクルの一つとして定期的に開催するように年間研修サイクルに位置づけた。

今回は、本学の別の委員会である「人を対象とする医療・福祉計研究倫理審査委員会」の要請に基づき、医療技術学部の学内講師による研修を下記の通り zoom にて行った。研修後は Google フォームを使っての講習内容の確認テストも用意され、綿密に構成された中身の濃い研修となった。終了後は動画の配信もされ、当日視聴できなかった教職員も視聴できるように配慮をした。

zoom で行い、学生の視聴も呼びかけたが、卒業研究を必須としているリハビリテーション学部の学生が 70 名受講し、これまでにない参加者数となった。教員は常勤教員 115 名の内 81 名が受講した。年齢や立場的に日常業務として研究活動に取り組めていない教員の関心が低いことや倫理面の配慮が必要な研究をしていない教員の参加が少なかったといえるが、今後は研究内容や状況の有無は問わずに全教員が参加できる講習も必要かと感じた。

- ・マクロレベル研修⑤ (FD 研修・3)

- ・研修タイトル：「研究倫理教育」(FD 研修)

- ・日時 令和 4 (2022) 年 2 月 17 日 (木) 10:30~12:00

- ・内容：「本学における研究倫理の基本的考え方、研究計画書、研究倫理審査申請書等を作成する際の注意点について」

- ・研修講師：磯 達也 先生（医療技術学部）

- ・対象：研究に携わる全教職員および研究を計画する学生全員 ※研究倫理審査申請書提出予定者は必須（卒業論文等を執筆する学生等含む）

- ・方法：Zoom にて実施（欠席者は後日録画した内容を視聴可）

5) マクロレベル研修⑥ 「非常勤講師説明会：FD・SD 研修」(FD 研修・4) 対象・非常勤を含む全教職員

年間研修サイクルにおけるマクロレベル研修の最後（6回目）となるのが「非常勤講師説明会」である。

元々は次年度の講義を受け持つ予定の非常勤講師をこの機会にお呼びして事務的な連絡を行ったり、常勤講学生や授業に関して、常勤講師との情報交換の場としたりすることを行ってきた。しかし、授業改善のPDCAサイクルが大学教育の質保証システムの核として重視される時代に入ったことで、年間研修サイクルの一環としてこれを位置付け、非常勤講師を含めた全教職員参加のFD・SD研修の機会とすることにした。ここでの具体的なテーマは、主に次年度の教育活動に関する課題についての理解と共有とし、教授力・指導力の向上を図る研修を実施することとした。

- ・研修タイトル「非常勤講師説明会：FD・SD研修」
- ・日時 令和4（2022）年2月26日（土） 9：00～12：00 （全面ZOOM）
- ・配信会場 群馬医療福祉大学前橋キャンパス2号館224教室および講師研究室

（当日プログラム）

①9：00～9：20 学長講話 「本学の教育に臨むもの：授業力の向上に期待して」

○学 長 鈴木 利定

②9：20～10：00 「2020年度～2021年度における授業評価アンケート集計報告および自由記述等から読み取れる授業改善ポイントについて」

○自己点検・評価・コンプライアンス委員会委員長 橋本 広信

③10：10～10：40 「授業実践報告」

○代表教員 リハビリテーション学部学部長 小島 俊文

④10：40～11：10 「授業実践報告」

○代表教員 リハビリテーション学部作業療法専攻長 山口 智晴

⑤11：20～12：00 アクティブラーニングに力を入れた授業実践のポイント

○高等教育支援センター長 戸塚 泰聖



「授業評価アンケート」の実施状況

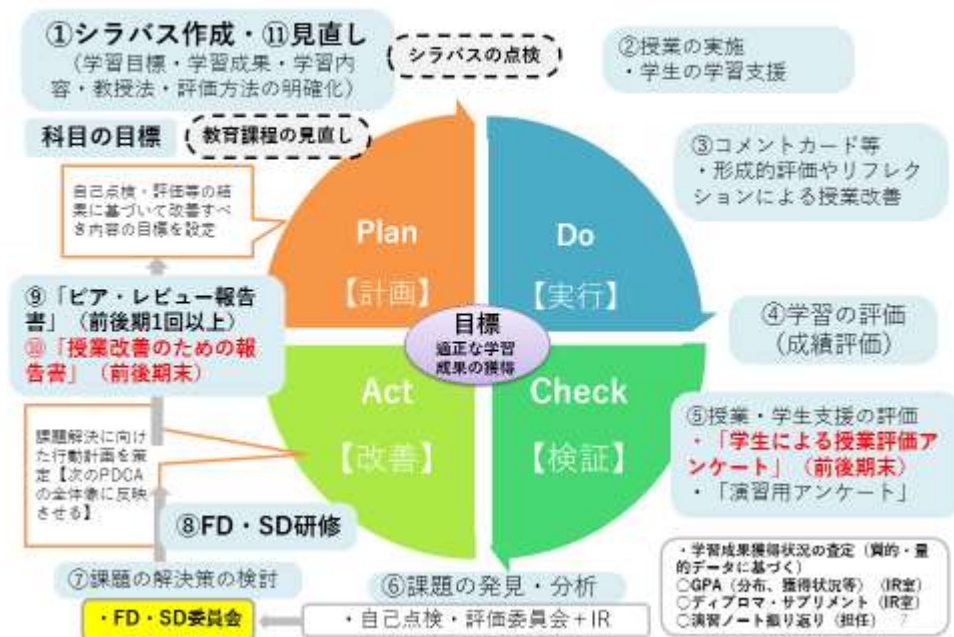
- 本学は前・後期の2期制
- 前・後期末に「授業評価アンケート」を実施（通年科目は後期末）
- 「基礎・総合演習」はGoogleフォームで学年別に別項目で実施
- 現在は本学のLMSシステム（Learning Management System）上で実施
- 科目担当者は、自動計算された結果をリアルタイムで確認可能
- 科目ごとに学部全科目平均との比較、学生の自由記述の閲覧が可能
- ➔**実際の授業改善につながるかに課題**



今回もコロナ禍の状況に配慮し全面 zoom による開催となった。最初に学長より研修の意義について説明がなされ、次いで自己点検・評価・コンプライアンス委員会委員長から、授業をどのような流れで改善をする仕組みを作っているのかについて解説がなされた。

右の図にある通り、現在委員会にて、様々な大学教育や運営に関する点検項目を検討し、PDCAサイクルとして図に表しモデル化する取り組みを行っている。この核となるのが「学生による授業評価アンケート」であり、この結果を受けて、すべての教員は「授業改善のための報告書」を提出することとなっている。また、相互に授業を参観し、互いの授業の向上に役立てる「ピア・レビュー」などの仕組みを用意しており、これらが、授業を実際に担当する個々の教員の授業の実際の改善につながるかが検証されなくてはならない。そこで、アンケートで出てきた数値をどのように扱うか、どのような指標で授業の良し悪しを判断すべきと考えているか、また学生の授業に対する意見としてはどのような意見が多いかなどについて報告がなされた。

現在の授業改善システム（PDCAサイクル図）



休憩をはさみ、リハビリテーション学部の2名の代表教員により、日常的に実践している授業の工夫などについて報告がなされた。

リハビリテーション学部長の小島先生、同じくリハビリテーション学部作業療法専攻長の山口先生による「授業実践報告」は、アンケートでも多くの方が触れているよう

に、これだけでいねいに授業を計画し運営することが日常的にできるということの見本となるものであり、視聴していた参加者はある種の感動に包まれた。

時間がなかったため、質疑応答の時間はとれなかったが、授業ごとにシラバスを毎回しっかり提示し直すことや資料作成の方法、授業展開や学生の理解度を確認するミニテストの実施法、また、学生からのコメントに対するリプライのあり方など、具体的に詳細な説明がわかりやすくされ、他の教員の模範となるものであった。



zoom開催でもあるためこまめに休憩をはさんだ後、高等教育支援センター長の戸塚先生より、全体のまとめも兼ねて、「授業のあり方・学生への接し方」と題して講話が行われた。



山口智晴 教授



長年群馬県内の高校で英語教員として教鞭を執り、高校での校長としての経験も豊富な戸塚先生の視点から、具体的な授業の準備や実践上で重視すべきことについて改めて確認すべき事項が提示された。なかでも、「教育は、学生（保護者）からの信頼関係がなければ成立しない」という基本原則ともいべきものについて指摘がなされた。

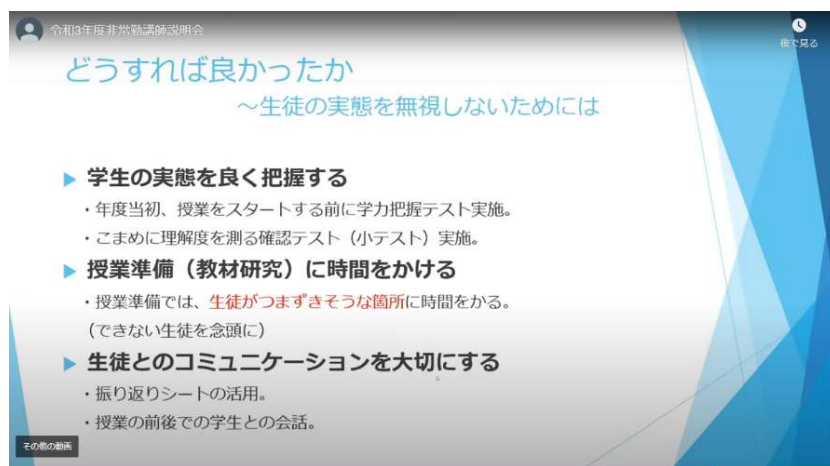


（戸塚 泰聖
センター長）

学生の生活面やキャリア上の指導など、現在の大学教育は授業だけで成り立つわけではなく、様々な関わりを通して、人としての成長を支えていくことが、大学教員には求められる。その信頼関係の核となるのは、学生や保護者との信頼関係であるということを、参加者全員で確認し合えた。

これら大きな研修は動画を YouTube で一定期間見られるようにも、欠席した方が見られる配慮を加えることもできた。

マクロレベルでの FD・SD 研修を次年度もさらに充実させていくことはもちろん、より学生との日常の生活場面に近いテーマなどについて、ミドルレベルでの研修の充実を推し進めたいと考えている。ミドルレベル研修は今年度力を入れたこともあり、各部局別の実施状況の報告が届いているので、別に提示をしたい。



（3）研修参加状況

1）マクロレベル研修参加状況

※2022 年確認時点 ・常勤教員数 115、非常勤教員数 114、常勤職員数 39（非常勤職員除外）計 268 名
 ※参加率は、対象が全員の場合は 268、純粋な FD の場合は 115 もしくは 229、SD の場合対象が全員の場合は 268、純粋な事務局スタッフを対象とした者は 39 と、研修対象により変化させている。いずれの日程のものも純粋に常勤を対象とした数値をカッコ内で記載する。

日程	FD・SD 区分	研修行事タイトル	常勤教員 参加者数	常勤職員 参加者数	非常勤教員 参加者数	参加者合 計	研修対 象者数	※参加率
R3/4/1	SD.1	年度初めの会	113	39	0	152	154	99%
R3/9/8	SD.2	第1回夏期FD・SD研修	108	19	15	142 (127)	268 (154)	53% (92%)
R3/9/15	FD.1	第2回夏期FD・SD研修	95	3	15	113 (98)	229 (115)	49% (85%)
同上	SD.3	第2回夏期FD・SD研修	0	34	0	34	39	87%
R4/1/5	FD.2	年始の会FD・SD研修	103	38	0	141	154	92%
R4/2/17	FD.3	FD研修・研究倫理教育	76	0	0 (学生75)	76 (151)	115	66%
R4/2/26	FD.4	非常勤講師説明会FD・SD研修 ※短大0	94	32	29	155 (126)	268 (154)	58% (82%)

※令和4（2022）年2月26日の「非常勤講師説明会」は、短大学生がコロナの影響で学内実習を余儀なくされた関係で全員欠席。後日動画を視聴することとした。

上記の表にあるように、年間を通した研修において研修に一度も参加できなかった常勤教員は名簿上2名のみであり、ほぼ全員が1回は研修に参加できた。常勤の職員に関しては変則勤務など実質非常勤的な勤務体制の職員以外は全員が何らかの研修に1回は参加できている。数値的にも、常勤だけを前提に見れば、研究倫理に関する研修以外は、いずれも80%以上の高い参加率を達成できた。

非常勤講師については、参加割合が少ないものの、「非常勤講師説明会」ではzoomでの実施および授業評価アンケートに関する研修である旨の案内もあったためか、他の研修の倍近い人数が参加をした。非常勤講師については、時間のかかる研修でもあり講師料も発生しないため、参加動機は低くなってしまっている現状がある。しかし、多くの授業を現実的に担っていただいている以上、研修への参加を強く呼びかけ、また内容も参加動機を引き出せるものとしていくことが、今後必要であると感じる。

（4）今後の展望とまとめ

本学は群馬県内3キャンパスに分かれて日常的教育活動が行われている。zoomの使用が日常的に行われる状況の到来は、授業だけではなく、研修の形に変化をもたらすものともなった。参加のしやすさからいえば、非常に有効であり、今後もうまく活用をすべきと感じた。また、非常勤講師の参加率向上の武器ともできると感じた。久しぶりにグループワークを行う研修も実施したが、アンケートでは意外に好評であった。遠隔の利便性はあれども、やはり直接対話をしながら様々なアイデアを巡らせ、交流を図るという活動には、それにしかない価値があることも一つの発見であった。今年は他にもミドルレベルでの研修を充実させるべく展開したが、いずれにしても研修を企画し運営業務を担う人材育成が、今後の研修文化の発展の鍵となることは間違いない。学内で、授業と研究以外に大学運営を担う人材を育成する流れを作ることが今後の大きな課題である。

今後も定期的な研修を通して、変化を恐れずに挑戦をし続けられる教職員集団への成長を目指していきたい。そして、そうした試みが、学生募集や学生満足度に反映してくる日が訪れることを楽しみにしたい。

(5) ミドルレベル研修 実施状況

ミドルレベル研修に今年度は力を入れるということで進めてきた。結果として以下のように、多くの研修を実施できた。内容の詳細な報告は各報告書に委ねることとし、タイトルと日程等を示しておく。

① 医療技術学部

(タイトル) 「ポスター発表会」
(研修実施日時) 令和3(2021)年 9月 9日(水) 10:00～ 12:00
(会 場) 群馬医療福祉大学前橋キャンパス 3号館 311～314教室
(参加者) ○所属常勤教員 17名(全17名中)(出席率100%)
○非常勤講師 なし

② 社会福祉学部社会福祉学科 社会福祉専攻

(タイトル) 「教育現場におけるハラスメントについて～ハラスメントにならないために、私たちがすること・できること～」
(講 師) 安全衛生・ハラスメント防止委員委員長 清水久二雄 先生
(研修実施日時) 令和3(2021)年 10月 4日(水) 10:00～ 12:00
(会 場) 群馬医療福祉大学前橋キャンパス1号館3階3G教室
(参加者) ○所属常勤教員 18名(全18名中)(出席率100%)
○非常勤講師 1名

③ 社会福祉学部社会福祉学科 子ども専攻

(タイトル) 「保幼小連携・接続のなかで大学教育に求められるもの」
(研修実施日時) 令和3(2021)年 9月 9日(水) 13:00～ 14:30
(講 師) 高崎市立京ヶ島小学校 校長 古澤 浩明 先生
(会 場) 群馬医療福祉大学前橋キャンパス 234/235教室
(参加者) 所属常勤教員 8名(全8名中)(出席率100%)

④ リハビリテーション学部

(タイトル)
1) 「日本学生支援機構奨学金と高等教育無償化制度(授業料等減免)について」
・講師:群馬医療福祉大学リハビリテーション学部 学生課 松澤百葉 氏
2) 「これだけは知っておきたい セラピスト養成大学教員のキホン」
・講師:群馬医療福祉大学リハビリテーション学部作業療法専攻 教授 山口智晴 先生
(研修実施日時) 令和3(2021)年 9月 9日(水) 9:00～ 11:00
(会 場) 群馬医療福祉大学本町キャンパス (zoom およびオンデマンド)
(参加者) 所属常勤教員 15名(全15名中)(出席率100%)
常勤職員 6名(全6名中)(出席率100%)
非常勤講師 1名

⑤ 看護学部

(タイトル)	「新入生調査の分析」「学生満足度調査の分析および改善策の検討について」
(研修実施日時)	令和3(2021)年 9月9日(水) 9:00～11:30
(会場)	群馬医療福祉大学藤岡キャンパス (zoom会場)
(参加者)	所属常勤教員 29名(全30名中) (出席率97%) 非常勤講師 0名

⑥ 短期大学部

(タイトル)	「基礎学力の低い学生についての指導」
(研修実施日時)	令和3(2021)年9月22日(水) 16:00～17:30
(講師)	山口和士(入試広報センター長)、戸塚泰聖(高等教育支援センター長)
(会場)	群馬医療福祉大学前橋キャンパス 224教室
(参加者)	短大常勤教員 8名(全10名) (出席率80%)

他に、社会福祉学部では令和4(2022)年2月16日(水)に、以下のような第2回目のミドルレベル研修を実施した。

- ・日時：令和4年2月16日(水) 16:00～17:30
- ・場所：オンライン形式のため各研究室等にて受講
- ・内容：ICT活用方法(関数、相対参照・絶対参照、ショートカット等)、オンライン授業の工夫
(Zoomでの投票機能の使い方等)
- ・講師：医療技術学部 藤本 壱 先生

以上のように、年間で7回のミドルレベル研修が実施されたことになる。マクロレベルで6回。合わせれば、年間で13回の研修が行われたことになる。

FD・SD委員会の教職員の負担が多かったと思われるが、うまく担当を分散することにより負担を減らしつつ、様々なレベルと領域において、向上に向けた活発な研鑽が今後も行われるよう、工夫をしていきたい。

以上

文責：FD・SD委員会委員長 橋本 広信